建築・構造の概要(1)

すべての機能が交流プロムナードに繋がる 低層型の交流・文化施設

当施設は、広い敷地を活用し、低く伸びやかな施設配置とし、各所の接地性を高めることで、随所に自然と直に接し、安全で、心地よい施設環境となっている。大半の施設を1階に集約配置し、人に優しい水平移動を基本としたバリアフリーに徹した低層配置とすることで、多様な活動シーンを身近に、気軽に楽しめる。

自然豊かな敷地の一部を繰抜いた様に、広く平らな交流 芝生広場を抱え込む施設は全面道路に開いたUの字を形 づくって、人々を迎え入れる寛容さを示す配置とし、駅 や商業施設や上田城などからの全ての利用者を優しく迎 え入れる。

三つの特長を備えた骨格デザイン

■明快で、わかり易い構成

回廊のような交流プロムナードの両側に全ての施設機能が取りついているため、プロムナードを一巡するだけですべての施設 機能に出会える明快さが利用者の活用をスムーズにする。

■開放的な施設機能配置

劇場の舞台裏機能も交流プロムナードに面して配置する など、表裏を問わずすべての機能が利用者に身近な位置 を得ている。また、交流芝生広場をはじめ、施設各所で 人々の動きが一望できる構成が賑わいを演出できる。

■柔軟性のある施設構成

交流プロムナードに取りついた施設機能の多くは、相互 に互換性があり各機能の交流が図られる。

2) 敷地概要

□敷地:

上田市「天神三丁目地区計画」C地区内

□用途地域: 近隣商業地域 □防火地域: 準防火地域 □指定容積率: 200% □指定建蔽率: 80%

□接道路:

市道/上田橋中島線(堤防道路)、幅員10.25m 市道/天神3の1号線(東西道路)、幅員16.00m 市道/天神3の2号線(南北道路)、幅員16.00m 市道/天神3の3号線、幅員W=12.00m

3) 計画建物

□主要用途: ホール・美術館
□敷地面積: 45,467㎡
□建築面積: 11,800㎡
□延床面積: 17,400㎡

口構造規模: 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、

鉄筋コンクリート造

口階数 地上5階、地下1階

□最高高さ: 35m□耐火種別: 耐火建築物

口駐車場: 普通車/約380台、大型バス/約5台

□施設構成:

• ホール 大ホール(1,530席程度)

小ホール(300席程度) 他附帯施設

• 美術館 常設展示室、企画展示室、収蔵庫、

市民アトリエ・ギャラリー、

アトリエ、他附帯施設

・交流施設 大スタジオ、多目的ルーム、スタジオ、

会議室、ボランティアルーム、

エントランスホール他

• 管理部門 総合案内、事務室、施設管理、託児室他

中央の交流芝生広場を囲み、市民文化活動の拠点となる 交流プロムナードと創作工房を廻らし、大きなボリュームとなるホールゾーンを南東側に、低層構成となる美術館ゾーンとそれに連なる緑地帯を北西側に配置する。 エントランスは、前面道路脇のカバードプロムナード廻りにあり、駅や商業施設、上田城などからの歩行者をスムーズに誘い入れることができる。また交流プロムナード中央に、交流芝生広場からと駐車場側からのメインエントランスを構え、さらに、交流プロムナード各所にサブエントランスが設け、自在な管理によって、どこからでも出入が可能で開放的な活用を実現する。

5)動線計画

来館者の誰もが容易にアプローチでき、雨の日にも濡れることなく施設に誘う。エントランス位置は視認性が高く、分かり易い計画としている。

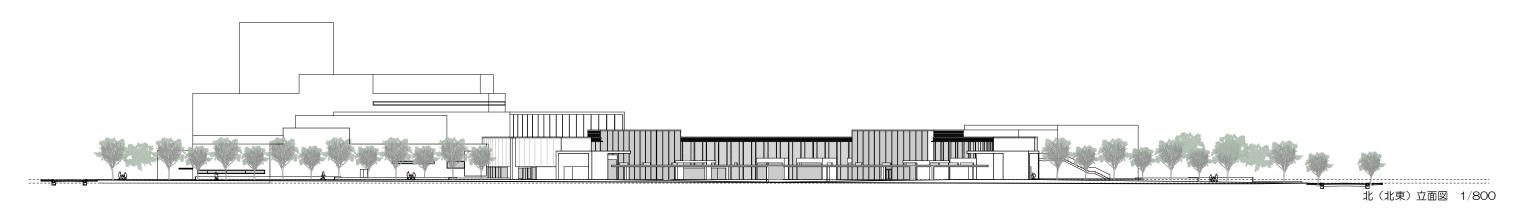
車両進入路は二カ所のみとし、混雑が起こらないよう計画している。

機能が連続する水平構成を基本とし、千曲川対岸からの 視線も考慮しながら、地域と調和する計画とした。各所 から自然採光を取り入れ、明るく開放的な計画とし、エ コな施設づくりを行う。また、中間期の自然換気に配慮 し、換気窓を計画する。色彩計画では、地区計画決定さ れている、「天神三丁目地区計画」に準拠する。

7) 断面計画

周辺環境で配慮すべきは西側の住宅地であり、低層で比較的夜は休館となり、騒音の出ない美術館を住宅側に配置し、住宅地域の環境を配慮した高さを計画している。また、市民の創作活動の場を1階に、ホールや美術館を2階にゾーニング計画することにより、1階ではそれぞれの活動を見たり見られたりすることで刺激し合い、賑やかさを演出し、2階では非日常空間としての落ち着いた雰囲気を演出する空間構成を計画している。





柳澤孝彦+TAK建築研究所・梓設計 共同企業体 TAKAHIKO YANAGISAWA + TAK ARCHITECTS , AZUSA SEKKEI

8) 大ホール

プロセニアム形式の複床式多目的ホール。

音響反射板を装備しておりクラシック音楽はもとよりオペラやミュージカル、さらには市民による文化活動の発表の場等に対応可能なホール。

客席 収容数:1,530席程度(うち車椅子席8席) ※仮設席等により最大約1,650席まで拡張可能

形式 : 平土間+2層バルコニー

舞台 プロセニアム形式

: Pw18.0~14.4m, Ph12.0~9.0m

主舞台寸法: w18.0m×d18.0m 袖舞台寸法: 上手w12.0m×d18.0m

下手w6.3m×d16.0m

舞台搬入口:w4.0m×h4.5m

大ホール用楽屋 : 大楽屋×3室 中楽屋×2室

小楽屋×3室

構造種別:鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

基礎形式: 杭基礎(既製コンクリート杭)

9) 小ホール

オープンステージ形式の多様な演目に対応できる 多目的ホール。四方を取り囲むシューボックス型の客席 配置により演者と観客の一体感を創出します。

客席 収容数 :320席程度(うち車椅子席4席)

形式 : シューボックス形式舞台 主舞台寸法 : w12.0m×d9.9m

袖舞台寸法 : 上手w5.0m×d9.9m

下手w5.0m×d9.9m

舞台搬入口 : w3.0m×h2.7m

小ホール用楽屋 : 中楽屋×2室 小楽屋×3室

構造種別:鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 基礎形式:杭基礎(既製コンクリート杭)

10) 美術館

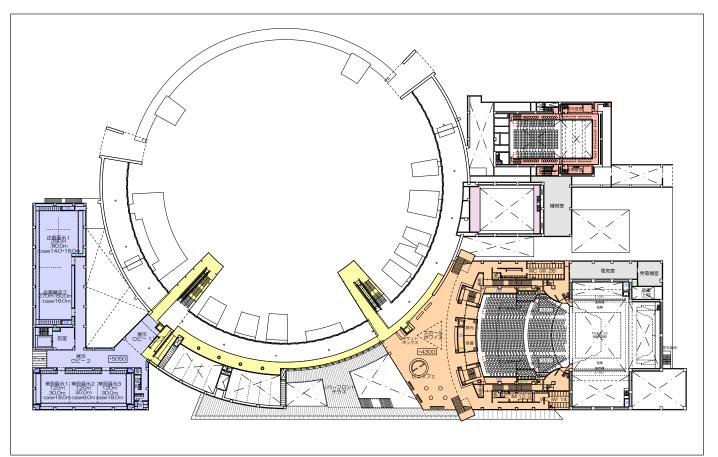
企画展示室、常設展示室ともに、可動間仕切・展示ケースを備え、多様な展示空間を提供することができます。 展示壁長は400m程度を確保しています。

企画展示室1 : 約280㎡ (壁長/約80m) 企画展示室2 : 約270㎡ (壁長/約60m) 常設展示室1 : 約120㎡ (壁長/約30m) 常設展示室2 : 約120㎡ (壁長/約30m) 常設展示室3 : 約120㎡ (壁長/約30m) 収蔵庫1、2 : 約220㎡、約100㎡ 市民アリエ・ギャラリー : 約290㎡ (壁長/約100m)

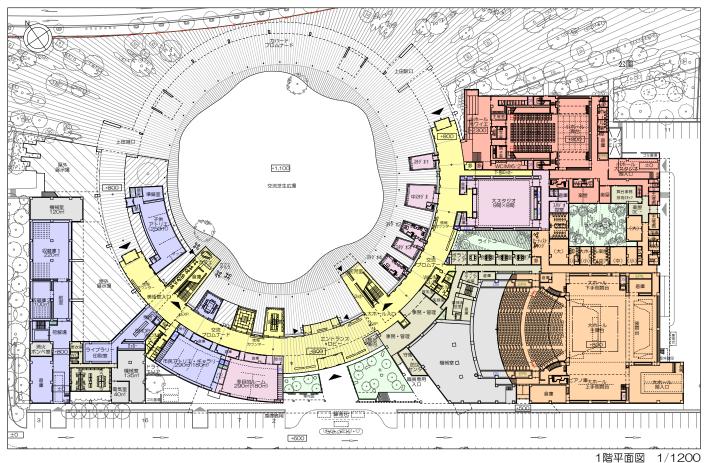
アトリエ アトリエ:約50㎡

子供アトリエ : 約250㎡

構造種別:鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 基礎形式:杭基礎(既製コンクリート杭)



2階平面図 1/1200



11)交流施設

交流プロムナードは各施設機能を横断する、誰でも気軽に演遊できる交流の大通りで、ホールや美術館ゾーンをはじめ、交流芝生広場に張り出すスタジオ会議室、アトリエ等の数々の活動が織りなす多様なシーンが人々の心を高揚させます。

大スタジオ : 約250㎡ (収容数/100人程度)

中スタジオ1,2: 各約70㎡スタジオ1~4: 各約30㎡

多目的ルーム :約290㎡ (壁長/約100m)

和室:約50㎡ 会議室 :約60㎡

構造種別:鉄骨造及び鉄筋コンクリート造 基礎形式:杭基礎(既製コンクリート杭)

12)管理部門

低層で平面的に広く配置されている各交流文化施設を効率的、専門的に管理できるよう、管理諸室を適宜分散配置し、効率的な管理が可能な計画としている。

13) 防災計画

施設の特徴は、施設の全体構成そのものに防災計画上の基本的安全性を持たせているものである。そして更に高い安全性を実現するために、各部の計画においても、入館者の安全確保と災害の発生及び拡大を防ぐことを主眼とし、施設全体の総合的安全性能を高めることを、防災計画の基本方針としている。

14)区画計画

区画の基本的な考え方として、交流プロムナードに面して大ホール、小ホール、美術館をそれぞれ独立して区画している。区画は、法令に基づき行っている。

15) セキュリティー計画

本施設は大ホール、小ホール、大スタジオ、美術館をは じめ多目的ルーム、市民ギャラリー、各種スタジオ・ア トリエ等の数多くの施設の集合体である。各施設のセキ ュリティーを独立して計れるよう使用範囲を識別できる カードキー方式等を候補に計画している。

16) ユニバーサルデザイン

上田市交流・文化施設では、エスカレータ、エレベーターの設置等バリアフリー対策は十分に計画しているのはもちろん、誰にとっても安全で使い易い施設として「ユニバーサルデザイン」の視点に立った、分かり易いサイン計画や多目的トイレの設置、段差のない床などの施設計画とする。

柳澤孝彦+TAK建築研究所・梓設計 共同企業体

Р

2011.6.24

TAKAHIKO YANAGISAWA + TAK ARCHITECTS , AZUSA SEKKEI

配置図 1:1000[A3] +4,800 +13,800 +8,300 +4,800 +11,200 +1,100 +7,800 数字はGLからのレベルです。 交流芝生広場 1FL=+800 ホール側の 2FL=+4,300 美術館側の 2FL=+5,050 +5,800 +9,800 +9,800 +9,600 +14,600 +22,500 +33,500 +18,500 +9,800 +6,800 +11,800 +18,500 +4220 +4780 +3760 438.39 千曲川 柳澤孝彦 + TAK建築研究所・梓設計 共同企業体

(仮称)上田市交流・文化施設 基本設計

環境配慮計画

1)環境配慮方針

①ライフサイクルコスト基準での徹底したコスト縮減管理 【ライフサイクルコスト LLC 15%削減】

- ・冷暖房負荷の低減、自然エネルギーの活用、エネルギー資源の有効活用を積極的に実施し、エネルギー使用量の低減を図る。
- ・各施設のエネルギー使用の特性を踏まえた、エコシステムを構築する。
- ②CASBEE S ランクを目指す 【ライフサイクルC.O₂ LCCO₂ 30%削減】
- 全国有数の豊富な日射量を活かし、自然採光、自然通風を積極的に取り入れ、地域の気候特性を活かした計画とする。
- 建物の長寿命化を目指し、耐久性に優れ、維持・管理が容易で、更新変更がしやすい施設とする。

2) 主な環境配慮手法

- ①冷暖房負荷の低減
- ・日射遮蔽:水平庇、縦ルーバー、LOW-Eガラス
- ・ 高断熱仕様: 外張り断熱・複層ガラス
- ②自然エネルギーの活用
- 自然光、自然通風: 自然換気
- •太陽光利用:太陽光発電
- ・地中熱、井水熱利用:クールヒートトレンチ、井水ヒートポンプ
- ③エネルギー資源の有効活用
- 井水:井水の雑用水利用
- 節水: 節水型衛生器具、自動水洗
- ・節電:人感センサー、昼光連動制御、初期照度補正、高効率照明器具
- ④建物の長寿命化の推進
- ・ 構造体の耐久性の向上: 高炉セメント
- ⑤周辺部の環境保全
- 敷地内緑化
- 浸透系舗装材
- ⑥エネルギー損失の低減
- ・ 外気カット (外気のカスケード利用)
- 熱源台数制御





⑦ 負荷の平準化

8低環境負荷材料



ガスと電気の2重化(空調用熱源)

交流芝生広場

・エコケーブル

太陽光エネルギー利用

施設の安全性

施設の耐震安全性については、構造的に1ランク上の強度を持たせ、地震時における大空間の天井落下やガラ ス破損等に対し最善の注意を払い、事故の起こらない計画とします。また、火災・水害等への安全策に配慮します。

耐震安全性の目標

防災への配慮

構造体: 大地震後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保

に加えて機能確保が図られる。

非構造部材:大地振動により建築非構造部材の損傷、移動が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止

が図られる。

災害時の対応

電源確保: 災害時には自家発電設備により必要な電源を確保します。電気室等は2階に設け、浸水に備える。

火災対策: 建物は耐火構造とする。

誰もが利用しやすい施設(ユニバーサルデザイン)

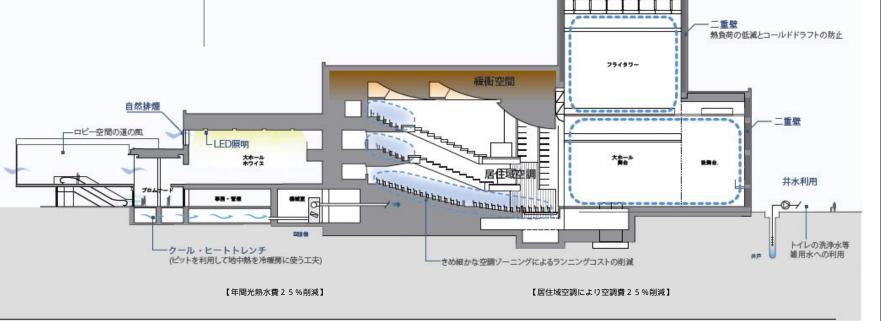
集約による利便性確保

段差のないスムーズな動線

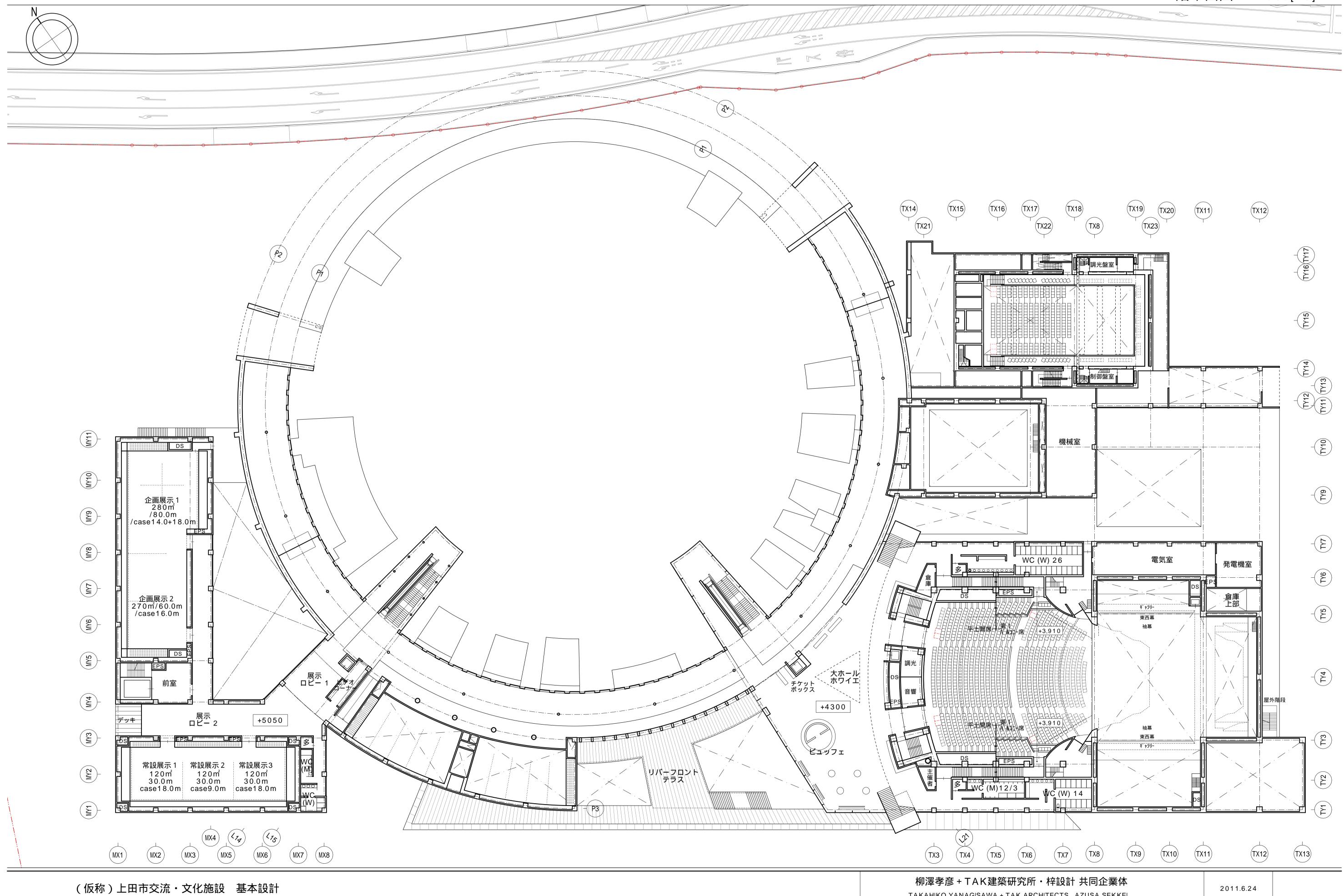
1・2階に集約された施設。エレベーター・上り下り兼用エスカレーターの設置。車椅子席、親子 鑑賞室の確保。

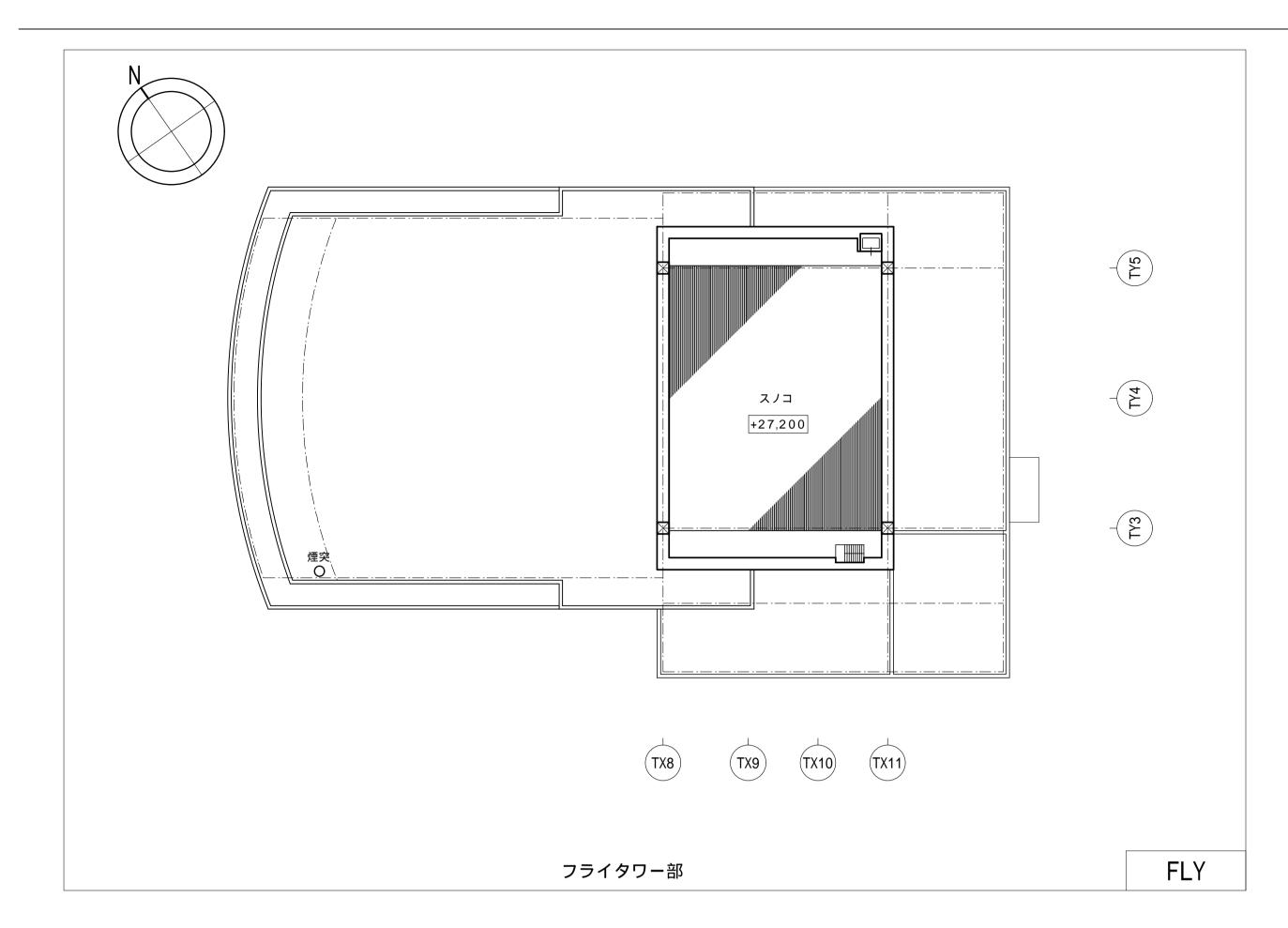
利用しやすさ・わかりやすさの追求

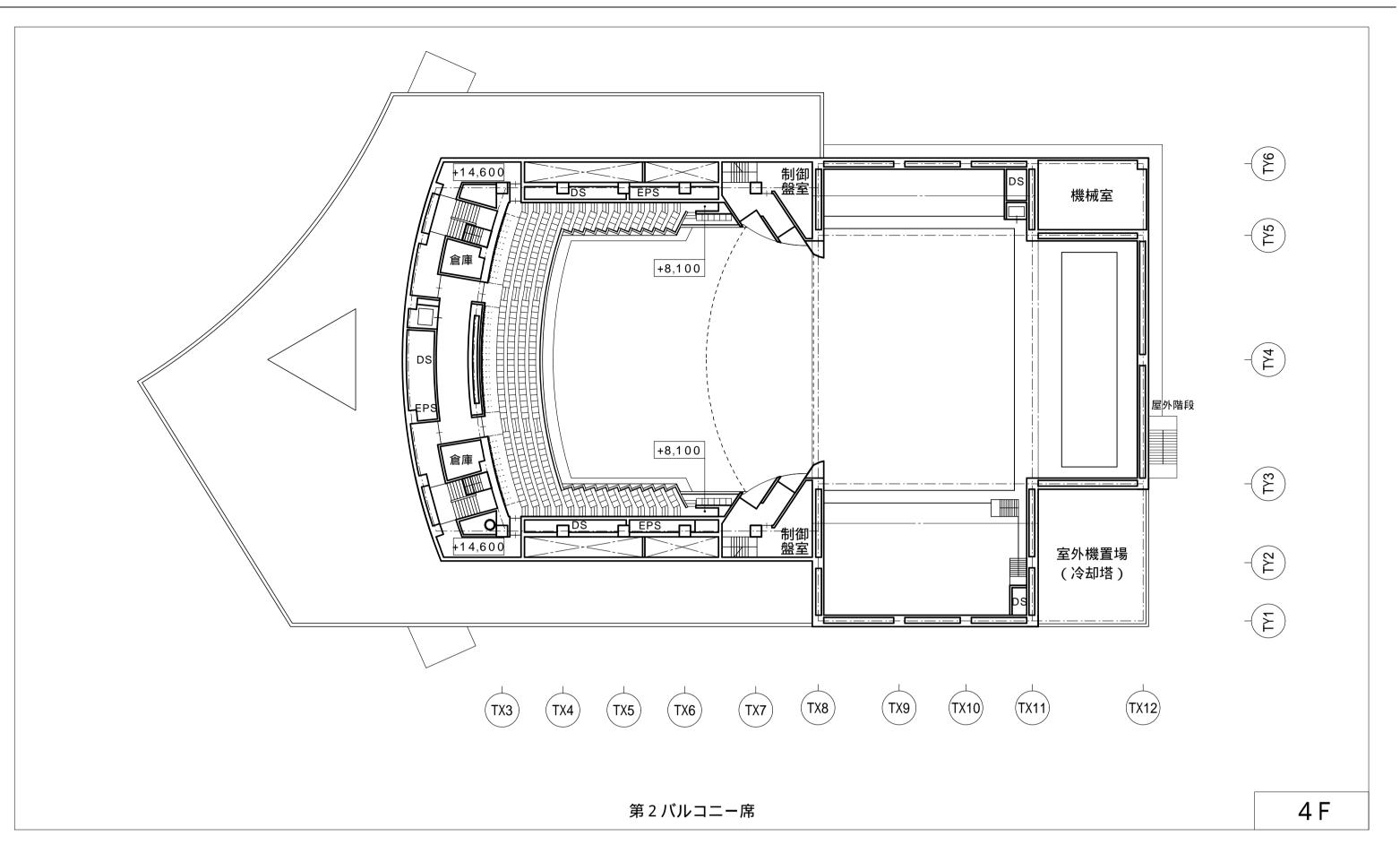
サイン計画の統一。車椅子席、親子鑑賞室の確保と多目的トイレの設置。アクセスを配慮した身体 障がい者用駐車場の確保。余裕のある空間の確保。

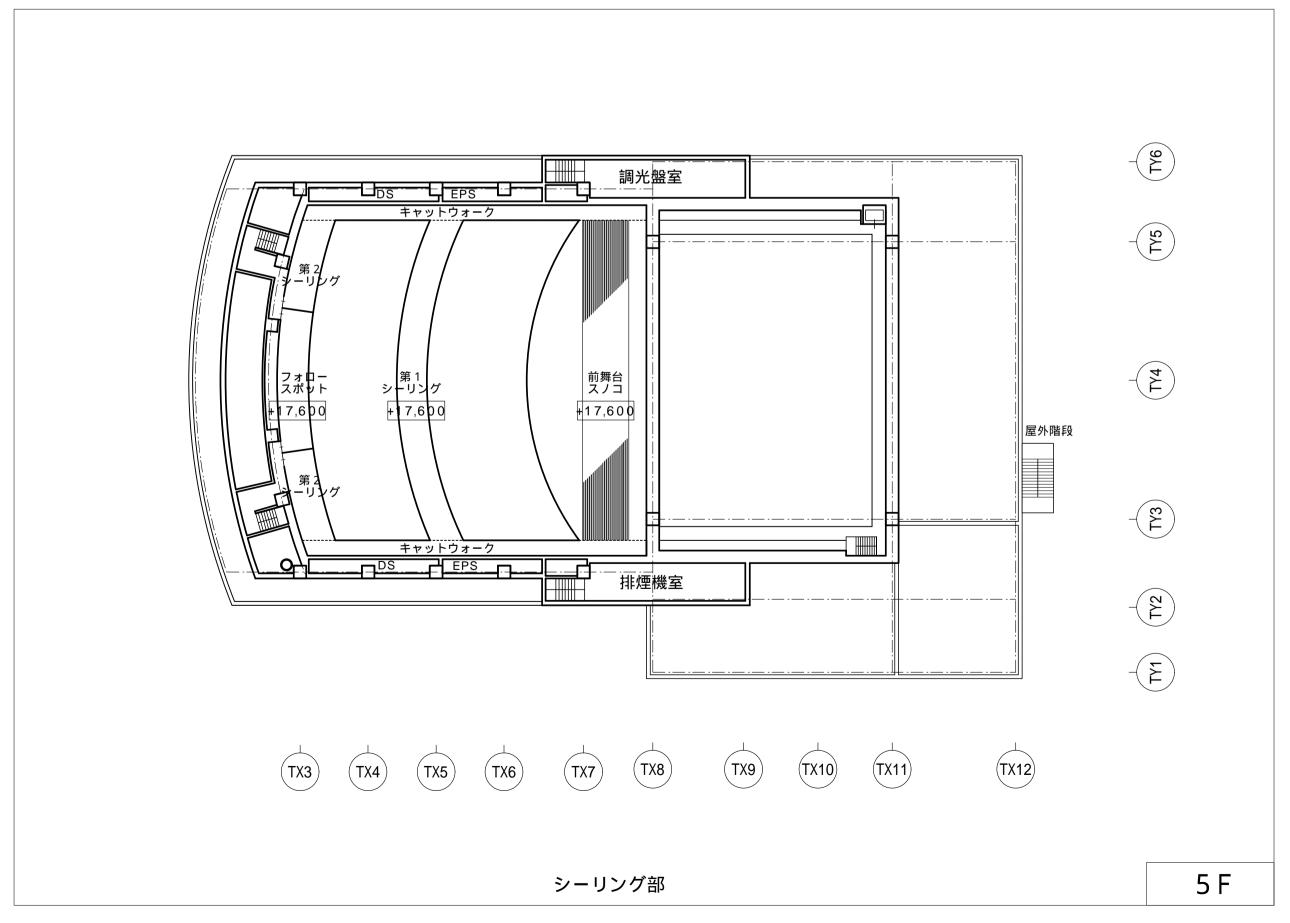


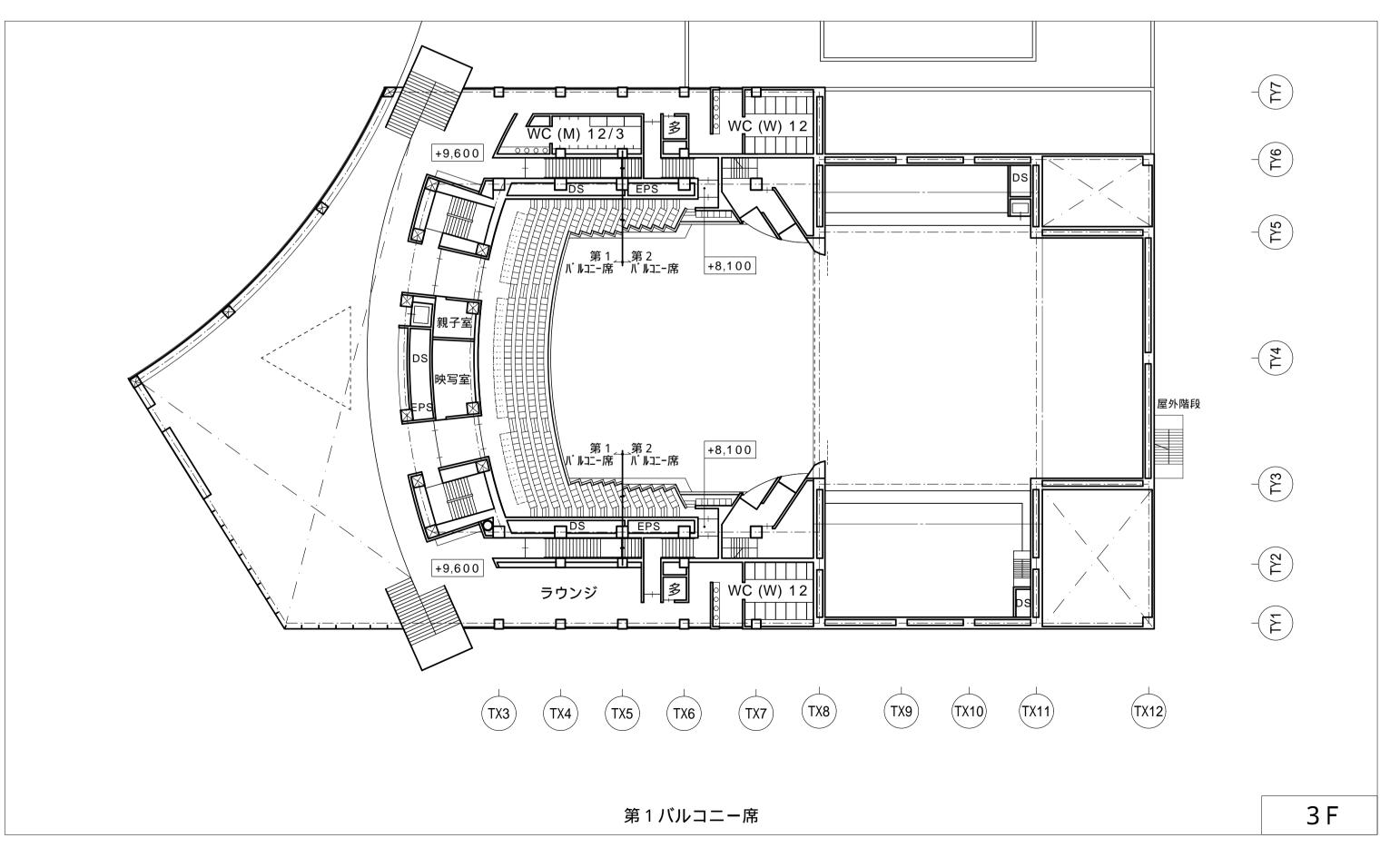
TAKAHIKO YANAGISAWA + TAK ARCHITECTS , AZUSA SEKKEI





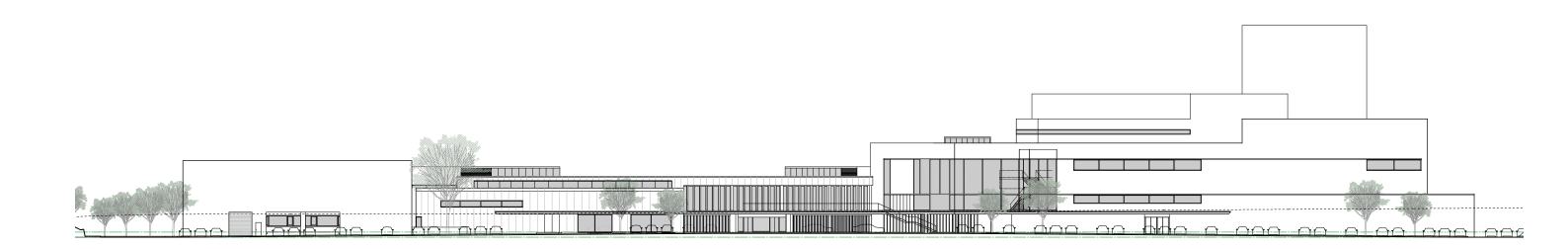




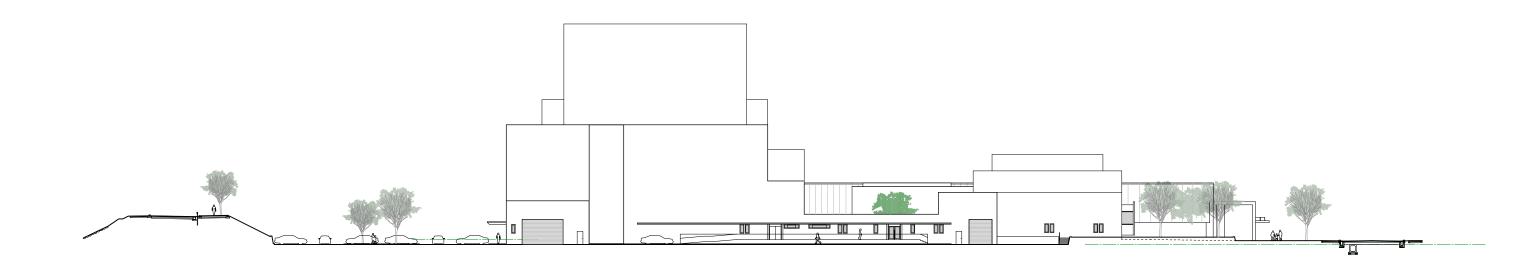




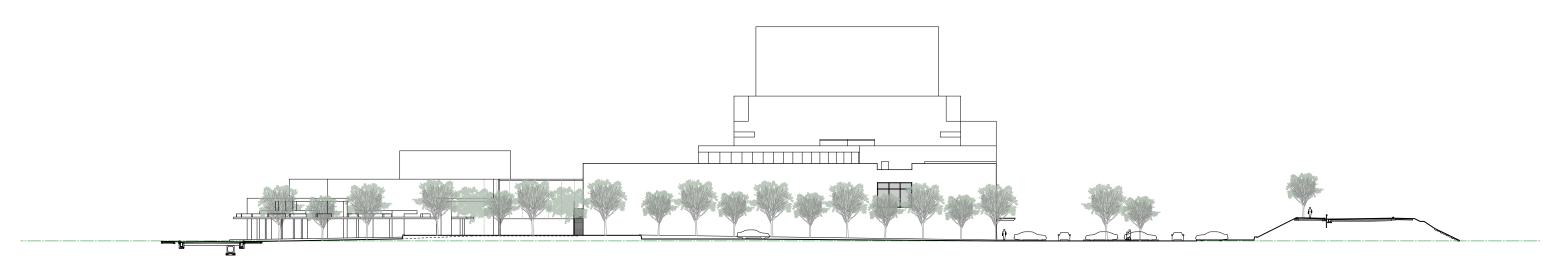
東北 立面図



西南 立面図



南東 立面図



北西 立面図